

気仙沼市内の主な防潮堤情報 2015.9.22 現在 気仙沼市議 今川悟

海岸名	基本情報	状況
魚市場前・港町 (気仙沼漁港)	管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 計画堤防高：海拔 5m (震災前は無堤) 防潮堤タイプ：壁式の特殊堤	震災前はチリ地震津波を防ぐ 2.8mの防潮堤が構想されていたが、魚市場への影響などから進まなかった。震災後も観光、魚市場、係留漁船への影響を心配する水産関係者が見直しを求めている。県は乗り越し道路、アクリルの窓などを提案。再建した水産加工場は防潮堤整備に賛成し、背後地の災害危険区域が拡大することから気仙沼市も計画を推進している。
浦の浜・磯草 (浦の浜漁港)	管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 計画堤防高：海拔 7.8m (震災前は一部に 3.12m) 防潮堤タイプ：標準＋特殊堤	大島へのフェリーや旅客船が発着する「海の玄関口」。大島は防潮堤反対者が多く、浦の浜でも見直しを求める声が高い。堤防高は想定宮城県沖地震が対象で、過去に発生した記録がほとんどないことから、津波シミュレーションを疑問視する住民もあり、説明会は進展しなかった。防潮堤計画は平成 30 年度内に完成する大島架橋からのアクセス県道、復興交付金で新設する大島ウエルカムターミナルにも影響するため、気仙沼市商工課が事務局となって復興懇談会を設置。住民代表による話し合いを重ねている。
大谷海岸 (三島)	管理者：宮城北部森林管理署⇒宮城県 計画堤防高：海拔 9.8m (震災前は 3m) 防潮堤タイプ：緩傾斜堤	快水浴場百選に選ばれた海水浴場があるが、当初は防潮堤整備によって砂浜の大半がつぶれる計画が示された。治山施設は背後に防災林を整備しなければならず、JR気仙沼線、国道 45 号もあってセットバックできないことが理由。国内外から注目された海岸の 1 つなり、気仙沼市が調整に乗り出し、管理を宮城県の建設海岸に移すことでセットバックが提案されたが、住民は国道まで後退させることを要望した。気仙沼市は住民の要望に賛同したが、国道のかさ上げが必要になることから国交省が難色を示している。
日門漁港	管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 計画堤防高：海拔 9.8m (震災前は無堤) 防潮堤タイプ：標準	大谷海岸と同様、すぐ背後に気仙沼線と国道がある。宮城県はレベル 1 津波対応の防潮堤が必要と判断しているが、住民は守るべき家はないと計画の撤回を求めている。市のミスで、災害危険区域は無堤で設定しており、計画変更の影響はない。県が詳細設計を作成してから次の話し合いを予定している。

未
合
意

合 意 済 み	<p>魚町・南町 (内湾)</p>	<p>管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 計画堤防高：海拔 5.1m（震災前は無堤） 防潮堤タイプ：壁式の特殊堤＋フラップゲート</p>	<p>当初は堤防高 6.2mだったが、津波シミュレーションの見直しで 5.2mに変更された。さらに港町の一部無堤化によって 5.1mとなり、余裕高 1m分をフラップゲート（可動式）にした。背後地を 2.8mまでかさ上げすることで、見た目の高さは 1.3mになる。防潮堤を含めたまちづくりの提案を募集した復興コンペでは、海底に設置する直立浮上式防波堤が最優秀賞に選ばれた。影響力が大きいため、知事が直接乗り出し、最優先で合意形成に力を入れた。</p>
	<p>鮎立漁港</p>	<p>管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 計画堤防高：海拔 8.1m（震災前は 2.42m） 防潮堤タイプ：壁式の特殊堤</p>	<p>地域によって住民アンケートを実施するなどして丁寧に話し合いを進め、道路との兼用堤、セットバックを実現させたほか、9.9mだった堤防高を 8.1mまで下げることに認めさせた。堤防高を決める海岸ユニットを小さくしたことで引き下げが可能になった。その後、守るべき家なくなった 100m区間を無堤化することも、地権者の意向によって決まった。災害危険区域は拡大するが、対象者は受け入れの意向を示している。</p>
	<p>鶴ヶ浦漁港</p>	<p>管理者：気仙沼市水産基盤整備課 計画堤防高：海拔 7.6m（震災前は 2.5m） 防潮堤タイプ：壁式の特殊堤＋標準</p>	<p>守るべき民家があって 9.9mの堤防高で合意していたが、鮎立漁港で海岸ユニットの変更が認められたことを受け、気仙沼市が変更の意向を確認した。その結果、7.6mに下げることで合意した。</p>
	<p>田中浜</p>	<p>管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所農林振興部 計画堤防高：海拔 3.9m（震災前は 3.9m） 防潮堤タイプ：原形復旧</p>	<p>県は原形復旧の考えだったが、市の意向で 11.8mのレベル 1 津波を防ぐ防潮堤を計画した。減衰効果によってレベル 2 津波が丘を越えて浦の浜を襲うことを防ぐためだった。しかし、住民が反対し、原形復旧に計画を変更。背後地に 11.8mの「防災の丘」を築くことで防災面の課題をクリアした。行政、住民ともに目的を果たしたこの変更によって事業費は半分の 54 億円に抑えられた。</p>

<p>小田の浜</p>	<p>管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所農林振興部 計画堤防高：海拔 4.3m（震災前は 4.3m） 防潮堤タイプ：原形復旧</p>	<p>市内で唯一再開している海水浴場のため、田中浜と同じように 11.8mから原形復旧に変更された。背後地が高台のため、「防災の丘」は不要。防災林は拡大されるが、総事業費は 30 億円が 8 億円に減額できた。原形復旧の方法に問題があって工事入札が中止された。</p>
<p>お伊勢浜</p>	<p>管理者：宮城北部森林管理署 計画堤防高：海拔 9.8m（震災前は 3.9m） 防潮堤タイプ：緩傾斜堤</p>	<p>大谷海水浴場と同じように砂浜をつぶすように防潮堤が計画されていたが、地域の要望によって 100mセットバックすることで合意。背後地に国道や線路がなかったことで、思い切ったセットバックが可能になった。砂浜再生のためのシミュレーションを実施中。</p>
<p>館漁港</p>	<p>管理者：気仙沼市水産基盤整備課 計画堤防高：海拔 11.3m（震災前は無堤） 防潮堤タイプ：標準</p>	<p>レベル 1 防潮堤より低いところに民家がなく、防潮堤の必要性が疑問視されている。住民は津波への不安から早期整備を求めている。唐桑町内では滝浜漁港も守るべき民家がないのに 11.3mの防潮堤が計画されている。</p>
<p>小々汐漁港</p>	<p>管理者：宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 計画堤防高：海拔 2.5m（震災前は 2.5m無堤） 防潮堤タイプ：原形復旧</p>	<p>当初は 7.2mの防潮堤を計画していたが、背後に整備される県道によって集落を守れることから、原形復旧に切り替えた。市内の海岸の三分の一は小々汐のように原形復旧にとどめる。</p>
<p>小泉海岸 (中島海岸)</p>	<p>管理：宮城県気仙沼土木事務所 計画堤防高：海拔 14.7m（震災前は 5.5m） 防潮堤タイプ：緩傾斜堤</p>	<p>県内最大の防潮堤が計画され、最後まで根強い反対意見があった。県は専門家を入れた検討委員会を設置するなどして、少しでも理解を得ようと努力した。防潮堤の位置を国道 45 号まで後退させる案も出たが、レベル 2 津波シミュレーションによって、高台にある小泉小学校などが浸水する結果となって断念。震災後に整備される三陸道が津谷川を遡上する津波をせき止めることによって、その海側の水位が高くなることが要因だった。大谷海水浴場とともに国内外から注目された海岸の 1 つである。</p>
<p>二十一浜漁港</p>	<p>管理：気仙沼市水産基盤整備課 計画堤防高：海拔 14.7m（震災前は無堤） 防潮堤タイプ：壁式の特殊堤</p>	<p>小泉海水浴場の隣の海岸にあり、同じ 14.7mの防潮堤を計画。背後に国道 45 号があるため、壁式の特殊堤を採用する。地域から反対意見はない。</p>